

被災地の「トイレ空白」をどう埋めるか

～現地における携帯・簡易トイレの運用実態と課題～



公益社団法人 ピースポート災害支援センター（PBV）
現地コーディネーター 辛嶋 友香里

はじめまして



公益社団法人 ピースボート災害支援センター (PBV)

国内災害事業 / 防災減災教育事業 コーディネーター

辛嶋 友香里 (からしま・ゆかり)

＼M8 チリ大地震／
日本人の行方不明者に..

大学
時代

中・高の書道と国語
の教員免許取得

企業
時代

民間企業で営業やマ
ネージメントを学ぶ。
自身で美容サロン、
カフェ、宿を開業

旅人
時代

世界一周船旅に参加。
南半球をまわる。
その後も一人旅を継続

現在

3.11を
きっかけに
災害支援専門の
団体職員となる

- ・2011年、東日本大震災をきっかけにPBVの初期運営メンバーとして支援に携わり、職員となる
- ・被災地に向かう数万人のボランティアをオーガナイズ
- ・現在は、全国各地で講演や研修講師としても活動中
登壇例) 内閣府、各都道府県、他各自治体、社会福祉協議会、企業、団体 など
- ・避難所運営や災害ボランティアセンターの運営の人材育成など各種「防災・減災プログラム」の企画、開発、制作、運営などを総合的に実施
- ・その他、防災グッズの企画開発や、マニュアル作成のアドバイス、執筆なども行っている
- ・また、国内災害の緊急支援も現地責任者として担当。毎年常駐型で、被災地の現地コーディネーターとして災害対応にあたっている

- 内閣府防災「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」/ カリキュラム検討委員、監修・講師
- 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 避難生活改善に関する専門委員
- 災害ケースマネジメント検討会委員
- 群馬県災害派遣福祉チーム (DWAT) アドバイザー
- 女性防災ネットワーク・東京 (GDN-T) 立ち上げメンバー
- JFRA認定ファンドレイザー など

目指す社会は「ペイフワード」

PBV 災害支援専門の非営利団体

描く未来 VISION

**人こそが
人を支援できる
ということ**

ピースポート災害支援センター(PBV)は、被災地での災害支援活動や災害に強い社会づくりに取り組む公益法人です。

誰もが、自然災害に遭遇する可能性があります。国や地域を越えて、すべての人々がお互いに助け合える社会を創ることが、困難に立ち向かう力になると信じています。

私たちの使命 MISSION

**「お互いさま」を
共に歩む**

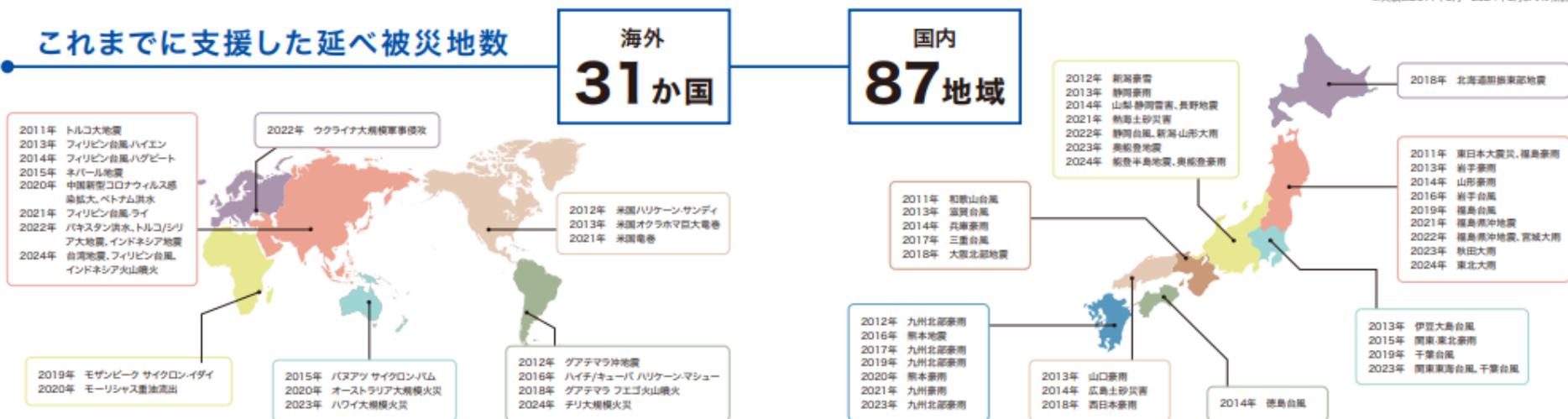
いつ、どこで起こるか分からない災害は、時に私たちが被災者にし、時に私たちが支援者にもします。自分を守り、大切な人も守る。そして、少し遠くの「あの人」を支えます。PBVは、被災者や被災地域の回復のために、その文化や営みに寄り添い、支援者として自発的に関わる多様な人々の想いを具体的に「役に立つカタチ」にします。

被災地の課題解決 SOLUTION

※2024年度 PBV活動報告書を参照

 ボランティア、スタッフの延べ活動人数 117,788人	 災害ボランティア・トレーニング修了者 10,033人
 被災地での食事支援(炊き出し) 162,691食	 家屋清掃、壁・床・屋根の応急対応 4,620件
 避難所の運営支援 141か所	 災害ボランティアセンターの運営支援 39か所
 仮設住宅への物資や見守り事業 39,668世帯	 公民館・集会所のコミュニティ支援 265か所

これまでに支援した延べ被災地数



実践と防災・減災のサイクル

災害時と平時。

積み重ねが災害を乗り越える力に。

災害時

平時

中長期の課題解決
被災家屋の清掃、床下・壁・屋根の応急対応
災害ボランティアセンターの運営支援
仮設住宅支援、要配慮者・子ども支援
コミュニティ形成のサポート など

初動と緊急支援
物資支援、食事支援(炊き出し)
避難所の運営支援、衛生環境・感染症対策
指定外避難所(在宅、車中、自主避難先等)への支援
行政の災害対応業務支援、支援調整 など

支援計画と体制づくり
支援内容に合わせた専門スタッフの派遣
災害ボランティアの募集と活動調整
現地関係者、支援者間の連携・協働
寄付者・協力者への情報発信、後方支援

被害状況の調査
情報収集、関係者の安否確認
先遣調査、課題の把握
被災地、関係者からの支援要請
支援の決定



支援の振り返り
支援活動の記録、報告
検証・分析・評価
次の災害に向けた課題の整理
資機材の調達、維持管理

普及啓発
防災・減災教育による人材育成
研修、講演、執筆、事例発表
専門委員等の委嘱による研究・提言活動
災害に強い地域づくり

多様なネットワーク
地域に根ざした都道府県・市区町村ネットワーク
連携の結節点をつくる日本全国ネットワーク
国境を越えた国際支援ネットワーク

支援の事前準備
人道支援基準等のスタッフのスキルアップ研修
テーマ別、技術別の支援活動講習
災害ボランティア・トレーニング、事前登録
支援者間の平時からの連携、協定の締結

これまでの被災地支援活動において、

141か所以上の避難所で支援を実施

・ 2011年	東日本大震災（宮城県石巻市）	60か所
・ 2014年	広島土砂災害（広島県広島市）	2か所
・ 2015年	関東・東北豪雨（茨城県常総市）	1か所
・ 2016年	熊本地震（熊本県益城町、熊本市、西原村）	17か所
・ 2017年	九州北部豪雨（福岡県東峰村）	1か所
・ 2018年	西日本豪雨（岡山県倉敷市）	5か所
・ 2018年	北海道胆振東部地震（北海道厚真町）	4か所
・ 2019年	九州北部豪雨（佐賀県大町町）	2か所
・ 2019年	台風15号（千葉県南房総市）	1か所
・ 2019年	台風19号（福島県いわき市）	1か所
・ 2020年	7月豪雨（熊本県球磨村、大分県日田市）	3か所
・ 2021年	7月豪雨 熱海市土砂災害（静岡県熱海市）	2か所
・ 2021年	8月豪雨（佐賀県大町町、武雄市）	6か所
・ 2024年	能登半島地震（石川県輪島市、珠洲市）
・ 2024年	9月奥能登豪雨（石川県輪島市）

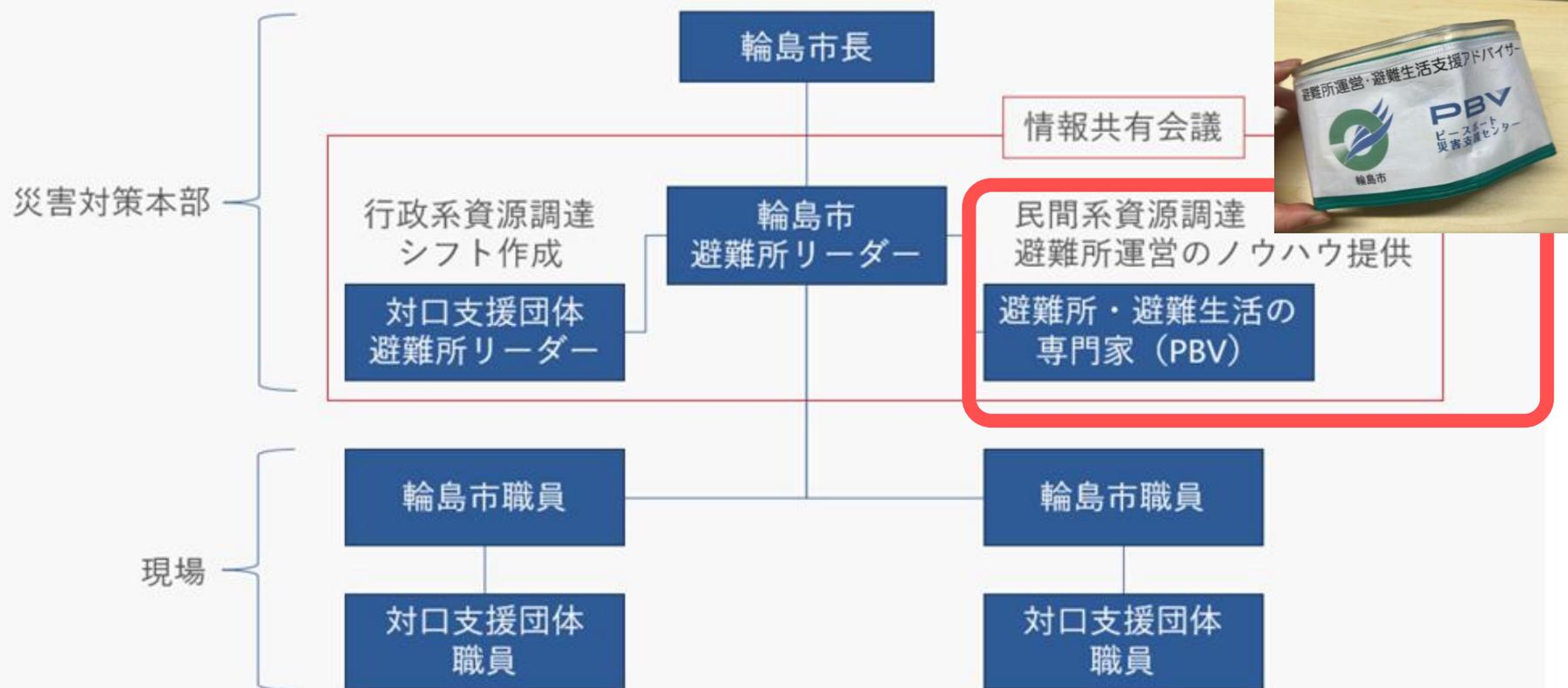
※その他、在宅避難・車中泊避難者等への支援実施数は上記に含まれません。

輪島市 PBVの活動経緯

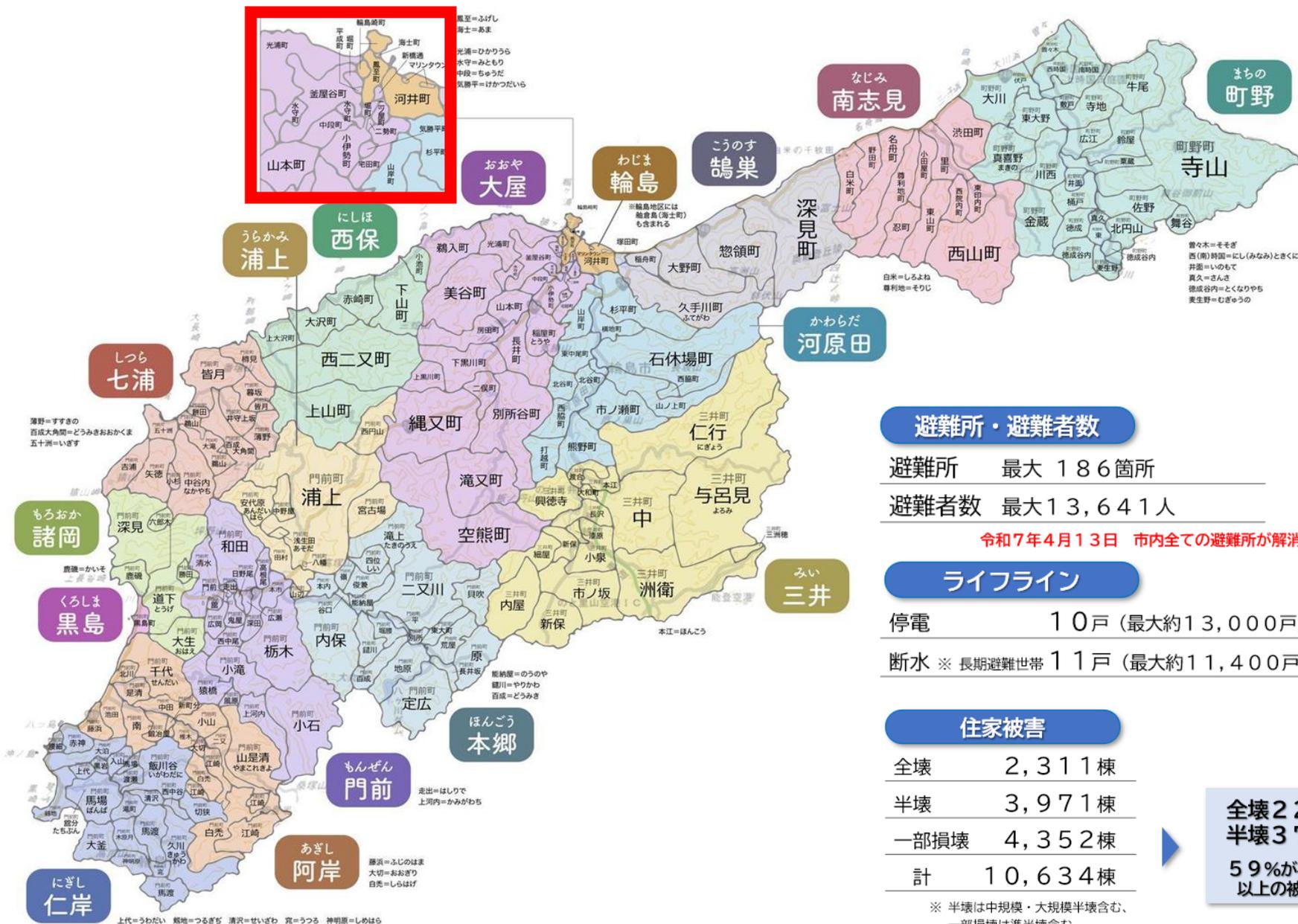
2024年1月5日～

- 避難所・避難生活アドバイザーとして市内全域の避難生活をコーディネート
- 各避難所の災害ケースマネジメント等
- その他、直接支援も実施

輪島市避難所リーダーを行政・専門家で支援



東京23区に匹敵する広域



なじみ
南志見

まちな
町野

このす
鵜巢

わじま
輪島

おおや
大屋

にしほ
西保

うらかみ
浦上

しつら
七浦

もろおか
諸岡

くろしま
黒島

にぎし
仁岸

ほんごう
本郷

もんぜん
門前

あぎし
阿岸

みい
三井

かわらだ
河原田

深見町

西山町

曹々木=そそぎ
西(南)時国=にし(みなみ)ときくに
井園=いのみち
真久=まひさ
徳成谷内=とくなりやち
美生野=みせのうら

輪島市での主な活動

2024年1月5日～現在

避難所の 運営支援 避難生活の サポート

輪島市



実績

避難所・避難生活アドバイザーとしての対応：
市内全避難所168か所
常駐スタッフによる運営支援：避難所6か所

物資支援



輪島市、珠洲市



実績

水、食料、発電機、燃料、生活用品、衣料品などの提供
提供数：計147,883点(26社1団体によるご協力)

支援調整窓口の 運営

輪島市、珠洲市



実績

珠洲市：累計1,688回の調整(炊き出し約20万5千食)
輪島市：累計2,146回の調整(炊き出し約30万5千食、
食事・物資160件、心身ケア238件、慰問・イベント98件)

入浴支援

輪島市



実績

利用者数：延べ22,586人
運営期間：277日間(5月30日～2月28日まで)

仮設住宅入居者 への家電支援

輪島市



実績

対象世帯数：4,053世帯
提供品目：掃除機、電子レンジ、炊飯器、電気ポット、
除湿器、ストーブなど

●行政伴走支援

●情報共有会議の開催・参加

●企業・団体ボランティアの受入れ、
活動内容の調整

仮設家電支援



① ぐたつ (テーブル/布団付き) 20ポイント	② 石油ファンヒーター (木造8畳、コンクリ12畳) 15ポイント	③ 掃除機 (スティックタイプ) 15ポイント	④ 電子レンジ (18ℓ 湯め・解凍専用) 15ポイント
⑤ 炊飯器 (5.5合) 10ポイント	⑥ 電気ポット (3リットル) 10ポイント	⑦ 除湿器 (4.5畳用) 5ポイント	⑧ ホットカーペット (2畳) 5ポイント
⑨ 扇風機 5ポイント	⑩ オープン トースター 5ポイント	⑪ ホットプレート (36cm×24cm) 5ポイント	⑫ ドライヤー 5ポイント

箱ものは当選しても、屋内はゼロからの準備。
生活環境を整え、スタートアップを支援

各種支援調整窓口



市内全地区の状況を把握し、被災者と支援者をつなぐ調整役

コミュニティ支援



特に

- ・コミュニティ形成困難地域
- ・物理的孤立地域 (アクセス困難地)
- ・コミュニティ希薄化地域
- ・支援制度の境界地域 (制度の谷間)

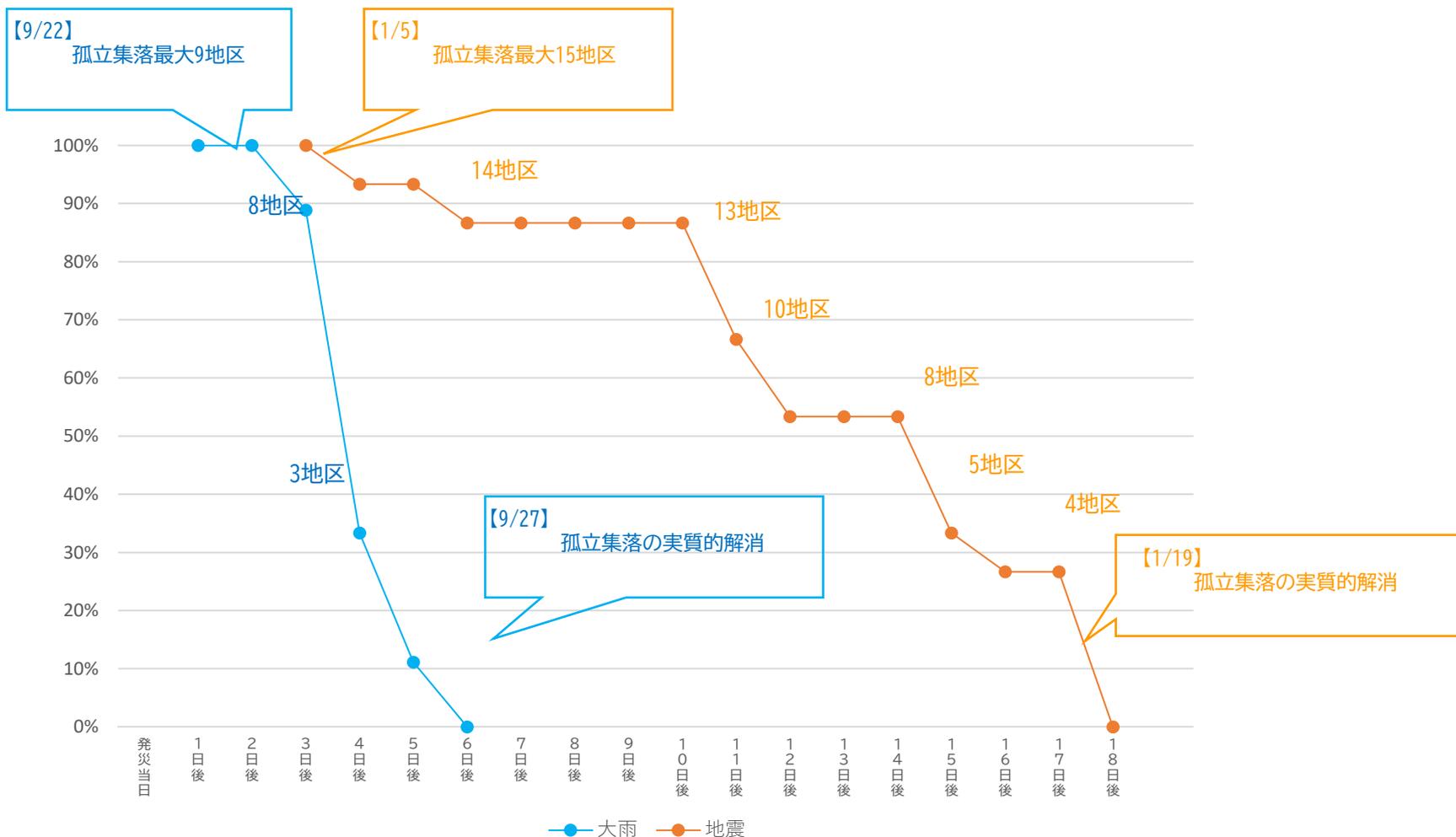
地理的孤立 届かない仮設・孤立する集落

人命救助・孤立地域の解消急務



能登半島地震 きたる大災害の近未来

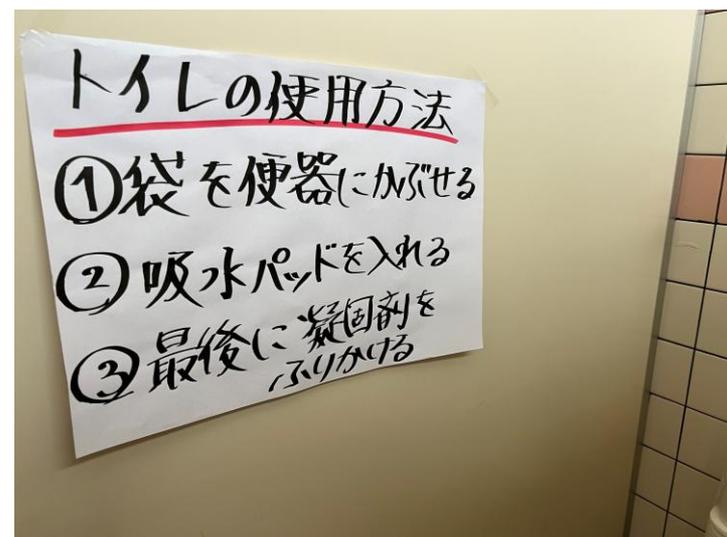
孤立集落の状況



発災直後のトイレ実態

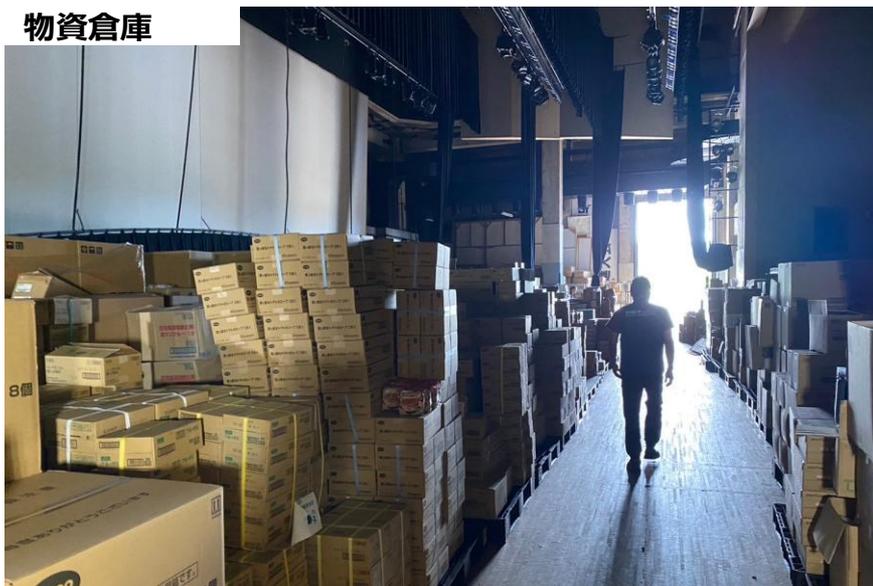


携帯・簡易トイレの「使い勝手」という罠



運営者・被災者の困惑

物資倉庫



粉タイプ



仮設トイレの導入



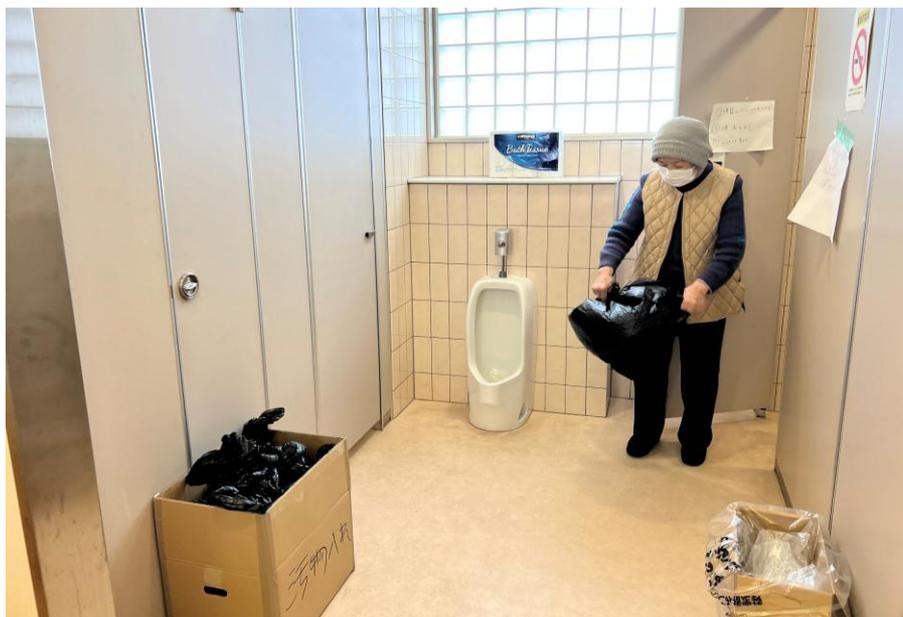
シートタイプ



災害時要配慮者



被災者の身体に起きる変化 (健康二次被害)



物流と廃棄の目詰まり「ゴミ」としての尿



見落とされる在宅被災者のトイレ



在宅避難者用食事受取カード

[10月1日(月)～10月15日(月)]

No. _____

世帯主名 _____

世帯人数 _____

受取場所 _____

配食時間

朝食・昼食 6:30～ 8:15

※朝食と昼食は同時にお渡しします。

夕食 18:00～19:15

- このカードは他の世帯に譲渡または授与できません。
- 食事の受取が不要になった場合はこのカードを受取場所まで返却してください。
- 食事数に変更があった場合は受取場所で記載内容を変更しますのでお申し出ください。

10月

	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
朝							
夕							

	7	8	9	10	11	12	13
	朝						
夕							

	14	15
	朝	
夕		

事務処理欄

トイレの設置と運用のギャップ

トイレの確保・管理

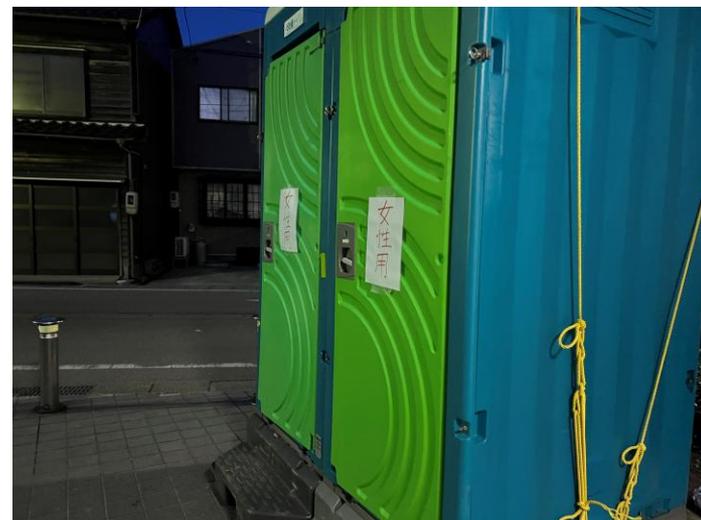
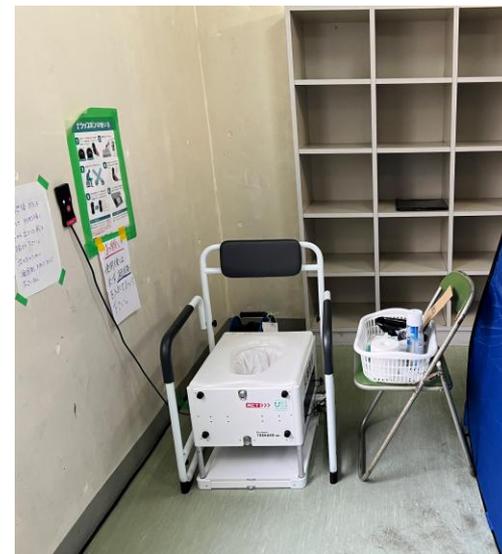
- ・携帯トイレ・簡易トイレ・仮設トイレの備蓄
- ・マンホールトイレの整備
- ・トイレカー・トイレトレーラーの確保
- ・仮設トイレの快適トイレ仕様での調達
- ・スフィア基準「20人に1基」等を追記



トイレトレーラー（輪島市）



快適トイレ（珠洲市）



トイレトレーラーの例



常設の階段は高さが急で、健常者でも上るのが怖い



緩やかならせん階段にすることで高さを緩和



スロープと手すりを設置。屋根を付けて雨対策も



足腰の弱い方でもトイレが利用できるようになった

知識の壁（情報・経験不足）

平時に一度も使ったことがないものは、有事に使えない。

心理の壁（心理的障壁）

「音」「匂い」「捨てる場所」への五感ストレス。

「羞恥心」等による心理的抵抗やADL（日常生活動作）の低下。

インフラの壁（廃棄の出口戦略）

溜まった「し尿ゴミ」をどう処理するかという物流の死角。